数学科シラバス　高校２年

１．教科到達目標

人間を取り巻く環境や、身の回りで起こる様々な事象に対する科学的な探究心を持ち、数学で学んだ力を通して、積極的に社会に還元する姿勢を養う。	様々な自然現象・社会現象を数式・グラフなどを用いて表現し、様々な数学的技法によってそれを処理し、その結果を解釈する力を養う。	数学が社会の様々な分野の基礎を支えていることを踏まえ、物事を数学的に解釈し、基礎的な計算処理を行う力を養う。

Ｓ：想定以上に該当能力の醸成が達成されたと判断されるもの
Ａ：期待通りに該当能力の醸成が達成されたと判断されるもの
Ｂ：部分的に該当能力の醸成が達成されたと判断されるもの
Ｃ：該当の能力の醸成が不十分と判断されるもの

＜文系数学Ⅱα＞

２．学習の到達目標と評価の観点

	単位数	学科・学年・学級	使用教科書と補助教材
（科目）**数学Ⅱα**	２単位	第２学年 （文系）	「改訂版 高等学校 数学Ⅱ」数研出版 「改訂版 クリアー 数学Ⅱ+Ｂ」数研出版
学習の到達目標	対数関数，三角関数の考えについて理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を育てる。		
評価の観点	＜主体性・多様性・協働性＞ 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。		
	＜思考力・判断力・表現力＞ 関数関係に着目し，事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力，問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。		
	＜知識・技能＞ 対数関数，三角関数の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。		

【点数化が難しい課題については、観点別評価とする。】
A：「十分満足できる」状況と判断されるもの・・・・・100%
B：「おおむね満足できる」状況と判断されるもの・・・ 80%
C：「努力を要する」状況と判断されるもの ・・・・・ 60%
D：未提出，未実施 ・・・・・ 0%

3．学習計画及び評価方法等

月	単　元	学習のねらい	学習のポイント，使用教材等
4・5月	数学Ⅱ第５章 「指数関数と対数関数」	指数関数について理解し，それらを事象の考察に活用できるようにする。	・指数の定義を理解し，その演算方法に習熟する。 ・指数関数の性質を理解し，方程式や不等式の解法に習熟する。
6・7月	数学Ⅱ第５章 「指数関数と対数関数」	対数関数について理解し，それらを事象の考察に活用できるようにする。	・対数の定義を理解し，その演算方法に習熟する。 ・対数関数の性質を理解し，方程式や不等式の解法に習熟する。 ・常用対数を理解し，桁数や小数首位問題を通してその有用性に気付く。
9・10月	数学Ⅱ第４章 「三角関数」	角の概念を一般角まで拡張し，三角関数について理解し，それらを事象の考察に活用できるようにする。	・一般角および弧度法について理解する。 ・弧度法で表された一般角に対する三角関数の定義を理解し，さまざまな問題を通してその扱いに習熟する。
11・12月	数学Ⅱ第４章 「三角関数」	三角関数の加法定理について理解し，それらを事象の考察に活用できるようにする。	・加法定理やそこから派生するさまざまな公式について理解し，問題演習を通してその扱いに習熟する。

1・2月	数学Ⅰ 「数と式」 「論理と集合」 「２次関数」	数学Ⅰの既習分野の復習を行うと同時に，大学入学共通テスト対策を行う。	・数と式，論理と集合，２次関数について，その内容の復習を行う。 ・大学入学共通テスト形式の問題演習を通して実戦力を養う。

評価の観点及び内容	評価方法（具体例）
＜関心・意欲・態度＞課題に積極的に取り組み，既習範囲の定着に努めたか。また，授業および宿題にきちんと取り組んだか。	授業課題・宿題提出(20%)
＜思考・判断・表現＞＜思考力・判断力・表現力＞ 教科書・傍用問題集の応用問題（Ｂ問題）が解けるようになったか。	定期考査(30%)
＜知識・理解＞ 教科書・傍用問題集の基本問題（Ａ問題）が解けるようになったか。	定期考査(50%)